

製品名: FGFR1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM85972**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:25-1:50
分子量	91.9kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR1 Fibroblast growth factor receptor 1, FGFR-1, Basic fibroblast growth factor receptor 1, BFGFR,
別名	bFGF-R-1, Fms-like tyrosine kinase 2, FLT-2, N-sam, Proto-oncogene c-Fgr, CD331, FGFR1, BFGFR, CEK, FGFBR, FLG, FLT2, HBGFR
遺伝子 ID	2260.0
SwissProt ID	P11362
免疫原	この FGFR1 抗体は、ヒト FGFR1 の C 末端領域からの 806 ~ 842 アミノ酸間の KLH 結合合成ペプチドで免疫化されたマウスから生成されます。

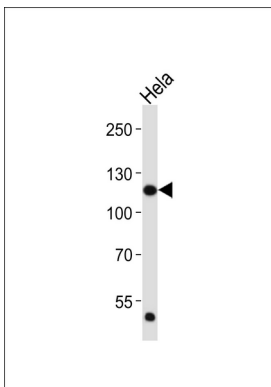
背景

線維芽細胞増殖因子の細胞表面受容体として機能し、胚発生、細胞増殖、分化、および遊走の調節に重要な役割を果たすチロシンタンパク質キナーゼ。胚発生中の正常な中胚葉パターン形成と正しい軸組織化、正常な骨格形成、およびゴナドトロピン放出ホルモン (GnRH) 神経系の正常な発達に必須である。PLCG1、FRS2、GAB1、および SHB をリン酸化します。リガンド結合は、いくつかのシグナル伝達カスケードの活性化につながります。PLCG1 の活性化は、細胞シグナル伝達分子であるジアシルグリセロールおよびイノシトール 1,4,5-トリスリン酸の生成につながります。FRS2 のリン酸化は、GRB2、GAB1、PIK3R1、SOS1 のリクルートを誘導し、RAS、MAPK1/ERK2、MAPK3/ERK1、MAP キナーゼシグナル伝達経路、ならびに AKT1 シグナル伝達経路の活性化を媒介する。SHC1、STAT1、PTPN11/SHP2 のリン酸化を促進する。核内では、RPS6KA1 および CREB1 の活性を増強し、転写制御に寄与する。FGFR1 シグナル伝達は、IL17RD/SEF、ならびに FGFR1 のユビキチン化、インターナリゼーション、および分解によってダウンレギュレーションされる。

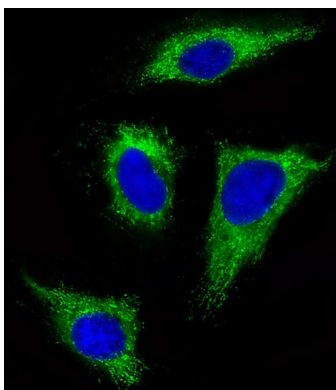
研究分野

TGF- β シグナル伝達経路、PI3K-Akt シグナル伝達経路、MAPK シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

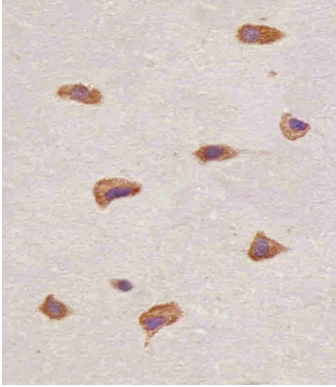
画像データ



HeLa 細胞株ライセートのウェスタンブロット解析。FGFR1 マウスモノクローナル抗体は 1:2000 に希釈した。二次抗体として、ヤギ抗マウス IgG H&L(HRP)抗体を 1:3000 に希釈したものを使用した。ライセート量は 20 μ g。



4%パラホルムアルデヒド固定、0.1%トリトン X-100 透過処理した HeLa 細胞 (ヒト子宮頸部上皮腺癌細胞株) を、AMM85972 (1/25 希釈) で FGFR1 を標識し、続いて Dylight® 488 標識ヤギ抗マウス IgG 二次抗体 (1/200 希釈) で標識した免疫蛍光染色像 (緑)。HeLa 細胞株の細胞質染色を示す免疫蛍光画像。核染色には DAPI (青) を用いた。



AMM85972 を用いたヒト脳組織切片の免疫組織化学染色 (IHC-P - パラホルムアルデヒド固定、パラフィン包埋切片) における FGFR1 の染色。組織はホルムアルデヒドで固定し、3% BSA で室温で 0.5 時間ブロッキングした。抗原賦活化はクエン酸緩衝液 (pH6) を用いた加熱処理により行った。検体は FGFR1 マウスモノクローナル抗体 (1/25) とともに 37°C で 1 時間インキュベートした。二次抗体には、希釈していないビオチン化ヤギ多価抗体を用いた。